

県立米沢鶴城高等学校の校章について

1 決定までの経過

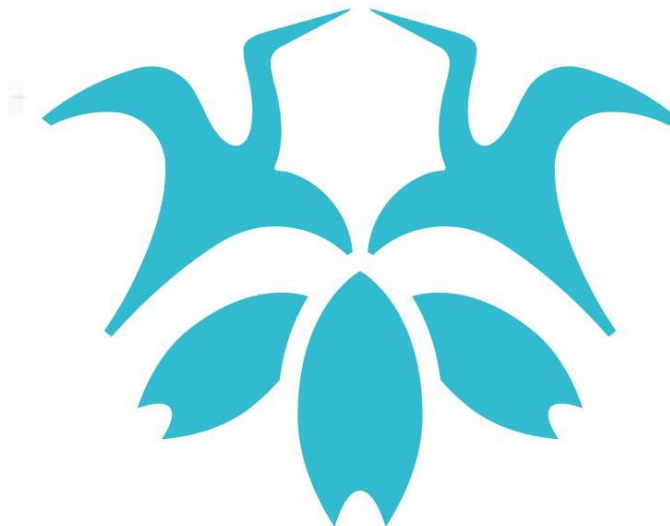
- 校章の参考デザインを公募（令和5年11月1日～12月16日）
- 129点の応募の中から参考デザインを選考
- 参考デザインをもとに、米沢市出身の白木亮太氏が制作

白木 亮太 氏：（しらき りょうた）グラフィックデザイナー

米沢市出身、東京都在住。企業のパッケージデザインやロゴデザイン、グラフィックデザインをはじめ、ビルのサインデザイン、ブランディング等も手掛ける。

地元米沢市の仕事にも関わり、近年では「YONEZAWA BENIBANA PROJECT」のロゴデザインや、「道の駅米沢」のロゴ・サインデザイン制作などにも携わっている。

2 校章デザイン及び意図



【デザインの意図】

- 2羽の鶴は「米沢工業高校」と「米沢商業高校」を指し、桜は米沢工業高校校舎入口にある枝垂れ桜をイメージ。2025年春（桜の季節）に、「米沢鶴城高校」として互いに力を合わせ、成長する様（上向きの鶴）を表現。鶴は1000年、枝垂れ桜も樹齢1000年以上といわれ、長く続く学校になるようお願いも込めた。
- 舞鶴城（米沢城）を居城とした上杉家の家紋（2羽の雀等）をモチーフにし、鶴の形は米沢でも馴染みのある直江兼続の旗デザインから昇華。
- 色は、生徒等のアンケートを元に鶴が空に羽ばたく様をイメージした「水色」をベースに、両校のイメージカラーと重ならない色として、「ターコイズブルー」を選定。ターコイズは「勇気と希望の石」と言われており、生徒にも『勇気と希望を持ち、未来に羽ばたいて欲しい』という願いを込めた。

3 製作者コメント（要約）

- 「鶴城」と名付けたことを踏まえ、上杉の誇りや魂、歴史を継承し、新たな形で昇華すべきだと考えました。また、120年を超える伝統校である両校の歴史にリスペクトを込めて、両校の生きた証を2羽の舞う鶴として残すことを考えました。
- 今回の統合は両校の校舎を引き継ぐ形。それならば校章デザインも「2校が力を合わせた感（パワーアップ、アップデート）」の見え方が適していると思いました。新しく見え過ぎず、安定感があり、歴史を重んじたデザインがふさわしいと思います。
- この先、時が流れて「なぜ鶴が2羽いる校章なのか」となった場合に、『かつて、米沢工業高校と米沢商業高校の2校があって…』と、当時を知る卒業生達が思い出やエピソードを話すきっかけとなる校章になれば良いと思います。